

審 議 (会 議) 結 果

次の審議会等を下記のとおり開催した。

審議会等名称	令和6年度神奈川県慢性腎臓病（CKD）対策連絡協議会		
開催日時	令和6年11月20日（水曜日）13時00分～15時00分		
開催場所	Web開催		
（役職名） 出席者	（会長）小林修三 （副会長）小林一雄 雁瀬美佐（以下、50音順） 小林香里〔関山委員代理〕 坂口順 杉本茜 高井昌彦 高木大輔 高橋伸孝 田村功一 田村洋介 藤井理恵薫		
次回開催予定日	令和7年10月～11月		
問い合わせ先	所属名、担当者名 がん・疾病対策課 神戸 電話番号 045-210-1111 内線4739 ファックス番号 045-210-8860		
下欄に掲載するもの	<ul style="list-style-type: none"> ・ 議事録 ・ 議事概要 	議事概要とした理由	未成熟な情報であって、公開すると混乱を生じさせるおそれがある情報（神奈川県情報公開条例第5条（3）の内容）のため
審議（会議）経過	開会 あいさつ 会議の傍聴 事務局 本協議会は、「附属機関等の設置及び会議公開等運営に関する要綱」に基づき公開とし、発言者の氏名、発言内容、要約を議事録として公開することになっている。開催予定を周知したところ傍聴希望があり、本日6名の方に傍聴いただいている。 小林修三会長		

報告（１）「慢性腎臓病（ＣＫＤ）の現状について」を事務局から説明をお願いします。

報告（１）「慢性腎臓病（ＣＫＤ）の現状について」
資料１に沿って事務局から説明。

小林修三会長

新規透析導入患者数と糖尿病性腎症は減少している一方で、腎硬化症が増加しているということ、また、新規透析導入患者数と腎臓専門医数の地域ごとの分布というものを示していただいたが、これらは県全体のＣＫＤ対策を進めていく上で重要なポイントかと思われる。

このことについて、御質問等はあるか。

他にないようであれば、次に進ませていただく。

報告（２）「令和５年度慢性腎臓病（ＣＫＤ）対策の県の実績について」と（３）「令和６年度慢性腎臓病（ＣＫＤ）対策の県の取組みについて」を事務局から説明をお願いします。

報告（２）「令和５年度慢性腎臓病（ＣＫＤ）対策の県の実績について」

報告（３）「令和６年度慢性腎臓病（ＣＫＤ）対策の県の取組みについて」

資料２及び３に沿って事務局から説明。

小林修三会長

このことについて、御質問等はあるか。

坂口委員

県から委託を受けて実施する県民向けの講演会において、最新版の県民向けのリーフレットを配布できればと考えているが、何とか間に合わないか。保存期の患者から直接話を聞いた際には、非常に参考になるとのことだったので、ぜひ、お願いしたい。

事務局

なるべく早く作成できるように取り組む。

小林修三会長

医療従事者から、様々な地域で各地区腎友会の講演会が行われている中で、進行をおさえる話をするには透析患者がいることもあり、何となくやりづらいところもあるという話も聞くが、今後も続けて構わないか。

坂口委員

問題ない。

田村功一委員

資料1の7ページ 県内の腎臓専門医数の分布について、医療従事者向け研修会により幅広い方の人材育成はしっかりとされているが、腎臓専門医数の少ない県西地域では、2人主治医制による多職種協働が上手く行われていないのではないかと懸念している。そこで、医療従事者向け研修会について、腎疾患対策に取り組む方だけでなく、より一般の医療従事者にも参加してもらえるように周知していくべきかと考える。また、県内4大学に働きかけて、県西地域への腎臓専門医の派遣を等しく行ってもらうことがよいのではないかと考える。現在の県西地域への腎臓専門医の派遣数を調べた上で、ぜひ検討していただきたい。

小林一雄副会長

県民向け普及啓発と腎疾患対策医療従事者向け研修会について、年に2回開催されているということだが、県西や県央の開催がないように思われるので、回数を増やしてもらうことは可能か。医療従事者向け研修会は4大学のうちのどこかが1回担当するべきなのではないかと考える。

事務局

補足すると県民向け普及啓発の方は、神奈川県腎友会に委託しており、実施する地域は年度ごとにバラバラに決めている。今年度は横須賀市と横浜市で東部に固まってしまったが、県西地域も含めて腎友会にて検討していただいている。

小林修三会長

どの地域で実施するかは各地区腎友会からの立候補ではないのか。

坂口委員

神奈川県腎友会が各地区腎友会からの提案に基づき、偏らないように判断はしている。

小林修三会長

承知した。医療従事者向け研修会は、県と日本腎臓病協会の神奈川県担当で地域を決めているのか。

事務局

こちらも補足するとコロナ前は現地開催で地域を決めていたが、コロナ後はオンラインでの開催により地域を問わず、参加が可能となっ

たため、関係団体に協力いただき、県内全体に周知するようにしている。

小林修三会長

状況は承知した。今後も県西地域も含めて働きかけをしてもらえればと思う。

事務局

講師選びの際は日本腎臓病協会の神奈川県担当と相談して決めているので、西側に所属している先生方に声をかけるということも検討する。

小林修三会長

他にないようであれば、次に進ませていただく。

報告（４）「神奈川県慢性腎臓病（CKD）診療連携構築協議会の開催状況について」と（５）「X（旧Twitter）の開設について」を事務局から説明をお願いします。

報告（４）「神奈川県慢性腎臓病（CKD）診療連携構築協議会の開催状況について」

報告（５）「X（旧Twitter）の開設について」

資料４及び５に沿って事務局から説明。

小林修三会長

このことについて、御質問等はあるか。

田村功一委員

県からの補助金をもとに横浜市立大学附属病院が行っている事業と診療連携モデル事業は別の話か。また、横浜市立大学附属病院が行っている事業について、もう一つの神奈川県慢性腎臓病（CKD）診療連携構築協議会で報告をする方がよいのではないか。

事務局

県からの補助金をもとに横浜市立大学附属病院が行っている事業と今回説明した診療連携モデル事業は別の話になる。そのため、神奈川県慢性腎臓病（CKD）診療連携構築協議会において、横浜市立大学附属病院が行っている事業の進捗状況等をご報告いただき、共有していただくことは構わない。別途、県が提案した診療連携モデル事業については、今後各自自治体と調整をしていく。

田村功一委員

県として世界腎臓デーに合わせたライトアップの計画は考えていな

いか。

事務局

検討する。

坂口委員

ライトアップもいいが、県民はそもそも何をやっているか理解していないところがある。

小林修三会長

おっしゃる通り、まずは基盤整備が重要となる。

田村功一委員

令和6年3月14日の世界腎臓デーに合わせて、県民の腎機能その場で測定するイベントを横浜市庁舎の一部を借りて実施したが、中々好評だったので、ぜひそういったことも検討してもらいたい。

小林修三会長

横浜市以外でも行っている自治体があると思うので、後援等含めて県としての公的なサポートを予算面だけでなく、各活動を後押しする何かを検討してもらえればと思う。

事務局

検討する。

雁瀬委員

臓器移植は10月の推進月間にグリーンライトアップにより全国キャンペーンを行っているが、世界腎臓デーはシンボルカラーが分からない。各地の活動も全国で象徴するものを持って活動した方が大きな活動として市民に伝わりやすいので、検討していただきたい。

小林修三会長

どう推進して、どう決めていくかは田村先生なり私なりがお預かりしたいと思う。

他にないようであれば、次に進ませてください。

ここからは議題に移る。議題(1)「今後の慢性腎臓病(CKD)対策について」を事務局から説明をお願いします。

議題(1) 今後の慢性腎臓病(CKD)対策について
資料6に沿って事務局から説明。

小林修三会長

このことについて、御質問等はあるか。

田村功一委員

この話は中々難しいところで、全国だけでなく神奈川県においても中期的に 65 歳以上の高齢者の人口は増加していくため、今後数十年間は新規透析導入患者数を減少させるということは難しいと感じている。ただ、目標値を設定する必要がある以上、腎疾患対策検討会報告書の考え方に合わせるべきではないかと考える。

小林修三会長

何らかの目標を立てることは重要だと思われる。せっかく参加いただいているので、各自治体で新規透析導入患者数等の目標値を設定しているかどうか話を伺いたい。

杉本委員

令和 6 年 3 月に策定したデータヘルス計画の中で平成 30 年～令和 4 年までの新規透析導入患者数の平均値の 48.6 人を下回るという目標を設定している。

小林香里（関山委員代理）

新規透析導入患者数の目標値は設定していないが、同じくデータヘルス計画において数値を拾って、その推移を評価しているにとどまっている。

高木委員

具体的な目標値は設定していないが、糖尿病性腎症による新規透析導入患者数を 2029 年に向けて減少させることは定めている。

高橋委員

新規透析導入患者数の目標値は設定していない。データヘルス計画においても患者数の記載のみにとどまっている。

小林修三会長

横須賀市においては数値があるということが分かったが、これについてご質問等はあるか。

田村功一委員

横須賀市では特定健診から腎臓病重症化予防を担当する部署と糖尿病性腎症を担当する部署の連携がうまくいっていると伺っている。神奈川県においても未病からの糖尿病重症化予防がうまく機能した結果、糖尿病性腎症を原疾患とする新規透析導入患者数の減少に繋がっ

	<p>たという実績がある。今後は増加している腎硬化症についても特定健診から拾い上げて、糖尿病との連携も深めていくという体制になりつつあるということから長期的に減少していくのではという期待感を持っている。横浜市においても連携を深めて取り組んでいきたいと考えている。</p> <p>小林修三会長 先ほど聞き忘れてしまったので、平塚市に伺いたい。</p> <p>田村洋介委員 都市衛生行政協議会という立場のため、個別の話は控えさせていただくが、県が現実的に達成できる目標値を設定したいとしているが、先ほど田村功一委員がおっしゃっていたように現状維持の目標値が良いのではないかと思う。</p> <p>小林修三会長 他に御意見がないようであれば令和6年度神奈川県慢性腎臓病（CKD）対策連絡協議会を終了させていただく。</p> <p>閉会</p> <p style="text-align: right;">以上</p>
<p>会 議 資 料</p>	<p>資料1 慢性腎臓病（CKD）の現状について 資料2 令和5年度慢性腎臓病（CKD）対策の県の実績について 資料3 令和6年度慢性腎臓病（CKD）対策の県の取組みについて 資料4 神奈川県慢性腎臓病（CKD）診療連携構築協議会の開催状況について 資料5 X（旧Twitter）の開設について 資料6 今後の慢性腎臓病（CKD）対策について 参考資料1 神奈川県慢性腎臓病（CKD）対策連絡協議会設置要綱 参考資料2 神奈川県慢性腎臓病（CKD）対策連絡協議会傍聴要領 参考資料3 令和5年度 各市町村の人口10万人対の透析患者数（2次医療圏） 参考資料4 令和5年度 各市町村の人口10万人対の原疾患別新規透析導入患者数（2次医療圏） 参考資料5 CKDに要注意（県民向けリーフレット） 参考資料6 神奈川県慢性腎臓病（CKD）診療連携体制構築協議会設置要綱 参考資料7 神奈川県慢性腎臓病（CKD）診療連携体制構築協議会委員名簿 参考資料8 腎疾患対策検討会報告書～腎疾患対策の更なる推進を目指して～（一部抜粋）</p>